

テーラーカラーにおける 折り山のデザインラインとダーツの関係について

The Relation Between the Folding Line of Tailored Collar and Darts

森田 裕子 YUKO MORITA
吉川 玲子 REIKO KIKKAWA
田原美津子 MITSUKO TAHARA

I はじめに

テーラーカラー (Tailored collar) とは、いわゆる〈背広衿〉のことで、〈男仕立ての〉〈男子服の〉などの意味をもつ衿である。したがってこの衿は、その名のようにならざるやうなコートやスーツによく使われており、あらたまった感じのするものである。18世紀末、フランス革命後、男子服に用いられたのがはじまりとされるが、近年は婦人服にも多く用いられるようになった。

特に、テーラード・スーツは、フォーマルからカジュアル、ユニフォームなど幅広く活用され、どの時代のシーンにも必ず登場するファッションとなっている。このスーツが時代を問わず好んで着用される要因は、はやりすたりのないある種の一貫性をもっていることと共に、シルエット、肩のライン、丈、バランス、そして衿の形によってその時代を表現できることにある。

ここでは、微妙に変わるテーラーカラーのニュアンスの部分、折り山のデザインラインがダーツによってどう変化するのかを考察してみた。

II 最近のテーラード・スーツの傾向

ここ数年、テーラード・スーツがどのシーズンにも数多く登場している。その主流はマスキュリンスタイル (Masculine style) と呼ばれる男性的なスーツであるが、最近 ('97年頃より) その対極ともいえる華美でセクシー、レトロな雰囲気をもつフェミニンなスーツが台頭してきた。その影響を受けリアルクローズ (Real clothes)、ミニマリズム (Minimalism) といったコンセプトを掲げている服もシンプルかつナチュラルな中に柔らかさ、フェミニンなムードをもつようになり、テーラード・スーツのデザインにも女性的な要素が盛り込まれてきた。そのため、テーラーカラーのデザインラインも実に多様なラインを描くこととなる。

この2・3年のパリ・ミラノのオートクチュール、プレタポルテコレクションの中から、その例を抜粋してみた。(写真-1~12)

1. デザインラインが直線的なもの

写真-1
'98~'99 A/W
CHLOE

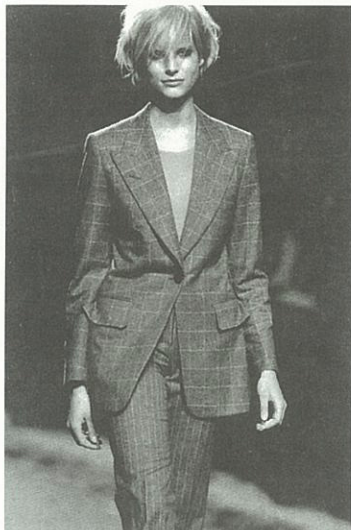
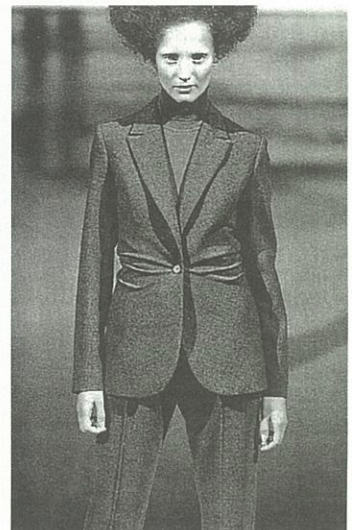


写真-2
'98~'99 A/W
GUY LAROCHE



2. デザインラインの上部がカーブしているもの

写真-3
'97~'98 A/W
GIORGIO ARMANI



写真-4
'98 S/S
YVES
SAINT LAURENT

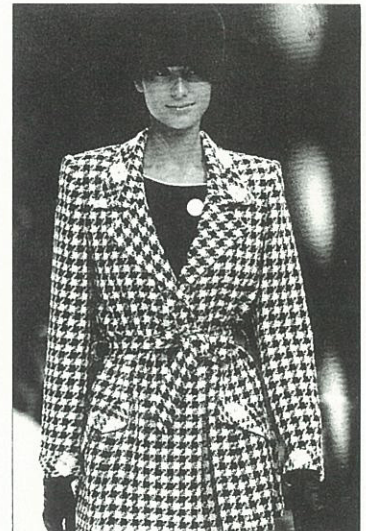


3. デザインラインの中間部がカーブしているもの

写真-5
'98 S/S
MIU MIU



写真-6
'98 S/S
LEONAD

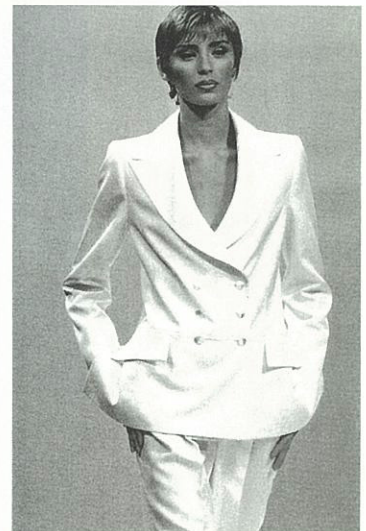


4. デザインラインの下部がカーブしているもの

写真-7
'98~'99 A/W
DICK KAYEK



写真-8
'98 S/S
CLAUDE MONTANA



5. 小さいテーラーカラー

写真-9
'98~'99 A/W
ALBERTA FERRETI

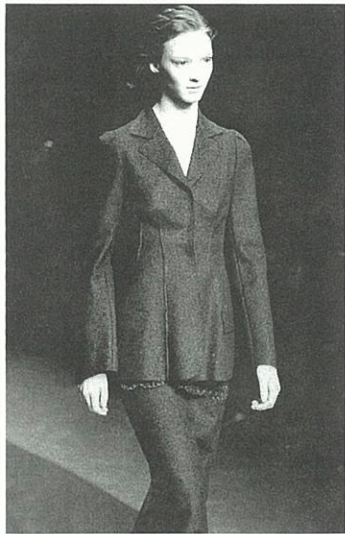


写真-10
'98 S/S
HERMES

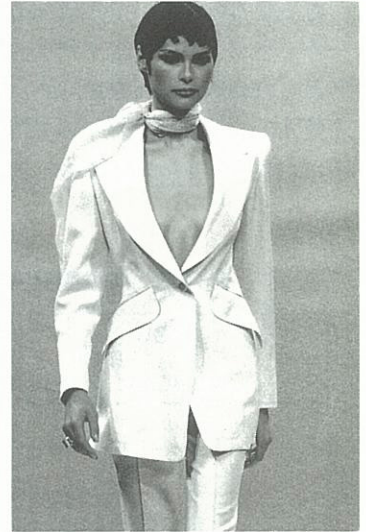


6. 特異なデザインラインをもつもの

写真-11
'97~'98 A/W
CHRISTIAN DIOR



写真-12
'98 S/S
CLAUDE MONTANA



Ⅲ 折り山のデザインラインを形作るためのパターン

テーラーカラーの折り山線とは、着用時に衿と身頃が一体になって折り返る箇所を指す。一般的には、首から折り先にかけて、斜め方向にほぼ直線的な形状となる。この時折り返った身頃の部分は、ラベルと称される。

前頁の写真に見られるように、この折り山線を直線からカーブへと変化させ、デザインラインとしての様々な表情をあらわすために、従来より工夫がなされてきている。主なものとしては、折り山線の奥、ラベルの陰にあたる部分にダーツをとる方法である。

〔1〕 杉野学園における平面裁断は、ドレメ式平面裁断であるが、過去に発表されたパターンの中に、該当するものを見ることができる。そのうち'84から'98の15年間に、本学園から発行された、NEW PATTERN BOOK、ニューデザイン研究、モード研究に限定して調査した。

さらにこの中で、テーラーカラーのジャケット及びコートのうち、折り山のデザインラインに影響を及ぼすと考えられるパターンを拾った。該当するパターンは50例を数え、これらについての分析を行った。表-1は年次別にパターンを分けたものである。

表-1 年次別 本学園発表パターン例

	NEW PATTERN BOOK	ニューデザイン研究	モード研究	計
'84~'85	7	0	1	8
'85~'86	2	0	1	3
'86~'87	0	0	0	0
'87~'88	1	0	2	3
'88~'89	0	0	0	0
'89~'90	2	0	0	2
'90~'91	0	0	0	0
'91~'92	4	0	1	5
'92~'93	2	0	4	6
'93~'94	0	0	3	3
'94~'95	0	0	2	2
'95~'96	3	0	2	5
'96~'97	4	1	3	8
'97~'98	2	0	2	4
'98~'99	1	0	0	1
計	28	1	21	50

これらのパターンは、折り山線の奥にダーツをとっているが、ダーツのとり方において違いが認められるので、表-2のように7つのグループに分類した。また、参考としてそれぞれのグループから1例ずつを挙げ、示した。(製図1~7)

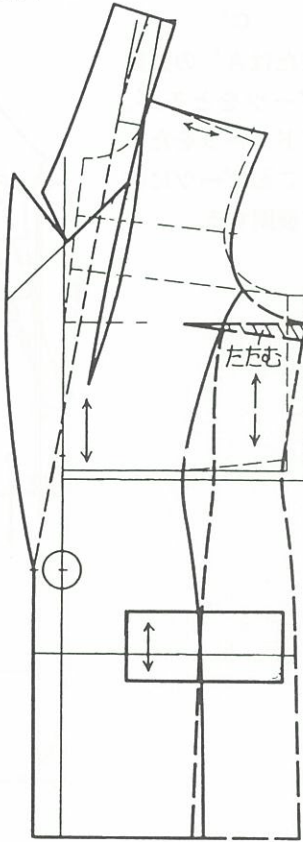
表-2 分類別 本学園発表パターン例

	NEW PATTERN BOOK	ニューデザイン研究	モード研究	計	%
A	6	0	1	7	14
A'	6	0	6	12	24
B	9	0	1	10	20
B'	2	0	0	2	4
C	1	0	0	1	2
C'	3	0	9	12	24
D	1	1	4	6	12
計	28	1	21	50	

製図-1

A

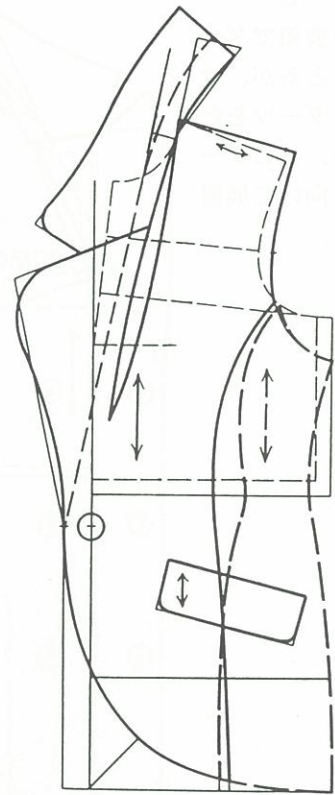
身頃衿付け線からの延長線を折り山線にほぼ並行にとり、そこにダーツをとる。ダーツの長さは、少なくともネックポイント（以後N.Pという）より3cm以上、下からとっている。



製図-2

A'

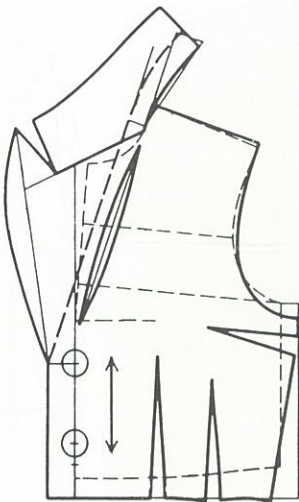
ダーツのとり方はAと同じ方法であるが直接N.Pからダーツをとっている。



製図-3

B

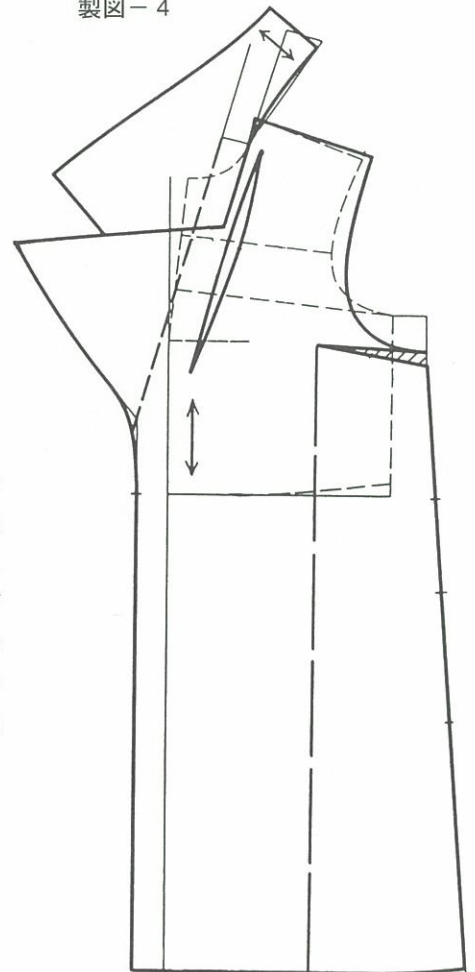
衿付け線の下、折り山線の奥に、折り山線にほぼ並行にダーツをとる。



製図-4

B'

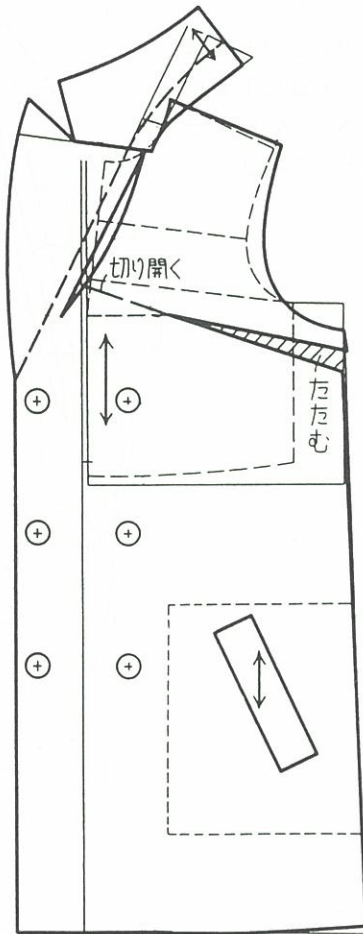
Bのように折り山線の奥に、折り山線にほぼ並行にダーツをとるが、Bよりダーツは長く、衿付け線の横に沿うような形となる。



製図-5

C

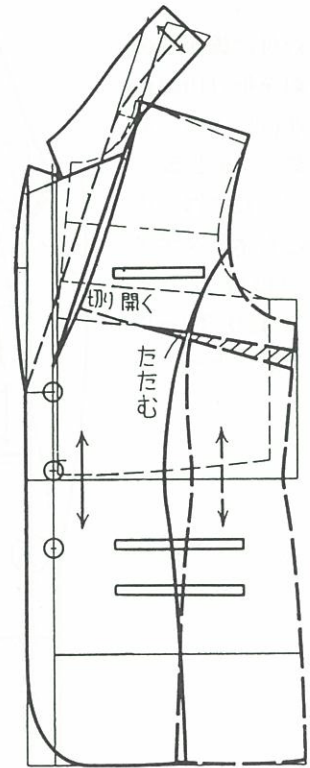
Bの要領でダーツをとるが、サイドダーツをたたみ、このダーツに向けて展開する。



製図-6

C'

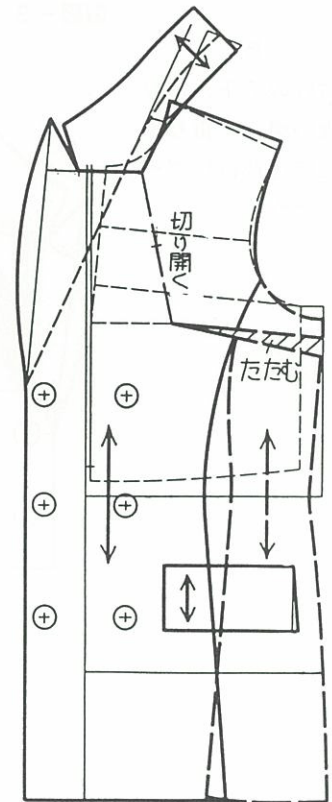
AまたはA'の要領でダーツをとるが、サイドダーツをたたみ、このダーツに向けて展開する。



製図-7

D

折り山線に沿わせたダーツをとらないので、上記A~C'とは性格を異にするものだが、あご下ダーツ(gorge dart)と称して、比較的よく使われるダーツである。サイドダーツをたたみ、衿付け線に向けて展開する。



[2] 次に他方式では、折り山線の奥にダーツをとる例がどれほどあるのか、本学図書館所蔵の服飾雑誌の中から該当例を拾い、前述と同じ方法で分類してみた。(表-3)

出典が限られているため、各方式のすべてを表しているとは言い難いが、ドレメ式と比べ、折り山線の奥にダーツをとるパターンは多いとはいえ、しかも特定の分類に偏っている傾向がある。

表-3 分類別 他方式パターン例

(単位：%)

	文化	田中千代	モード・I・モード
誌名	s o - e n別冊	服装 (注1)	MODE et MODE (注2)
年次	'84~'98	'84~'91	'84~'89
A	4.3	0	0
A'	3.5	0	0
B	6.1	7.2	7.1
B'	0	0	0
C	7.8	0	14.3
C'	17.3	7.2	78.6
D	61.0	85.6	0

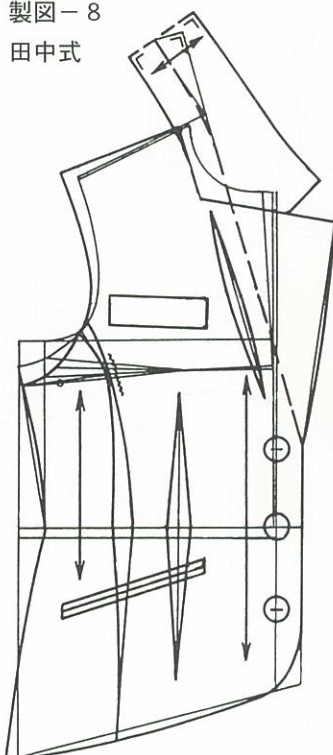
注1：「服装」は、'91年3月以降休刊

注2：「MODE et MODE」は'89年3月以降製図掲載なし

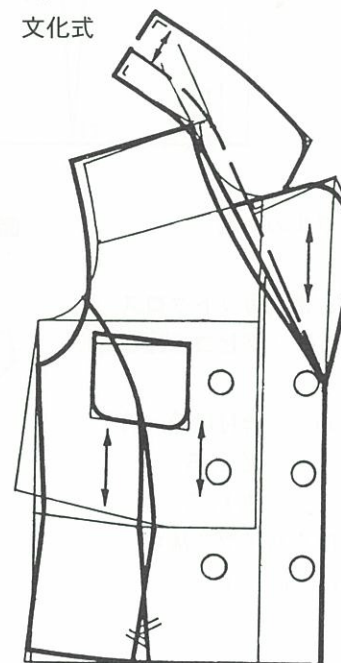
この中から田中式と文化式の2パターンを取り上げた。田中式はD（あご下ダーツ）の他はB、C'の2方法が見られるのみであり、製図-8はそのうちのBである。

文化式では、A~Dの分類の他に折り山線に変化をつける手段として、折り山線の奥でラベルを切り換え、切り換え線にダーツをとる方法が比較的多く見られる。(製図-9)

製図-8
田中式



製図-9
文化式



IV 実験

実験は、折り先の位置を二通りに設定し、デザイン1、デザイン2に分けて行った。

【デザイン1】

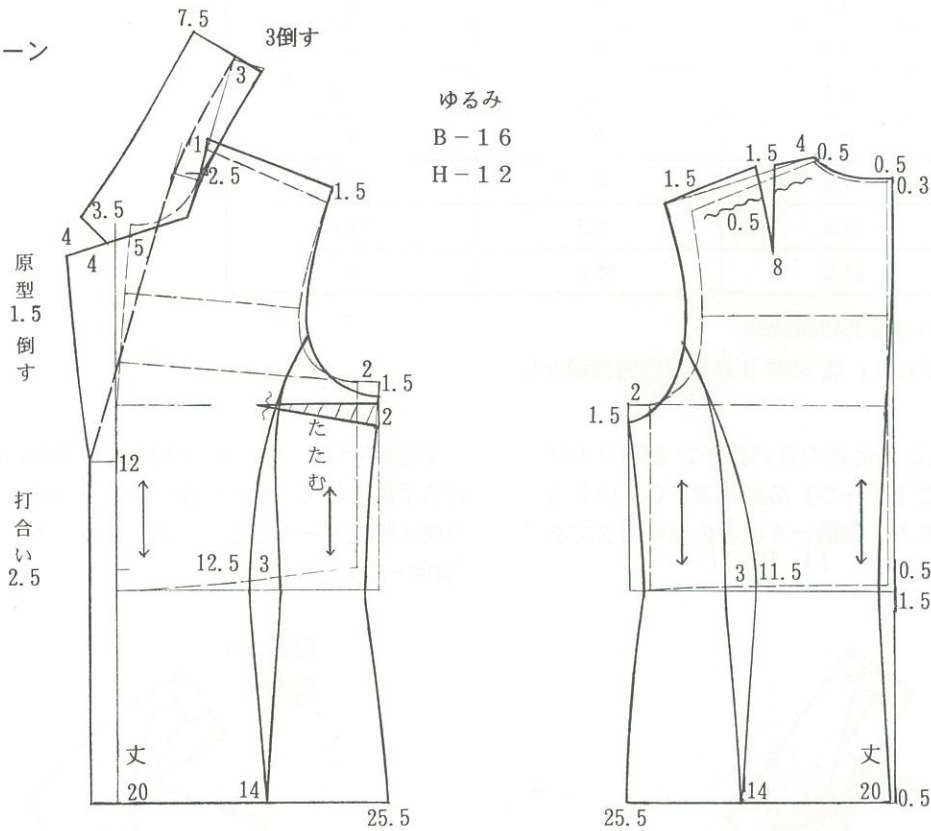
〔1〕 試料作成

①基本型パターンの作成（製図-10）

基本型パターンは、テーラーカラーのジャケットを想定した。

原型は、ドレメ式 Foundation II を使用し、中寸寸法で

製図-10
基本型パターン



製図した。ここに示したパターンは、試作したトワルをボディに着せて修正を行った上でのものである。

ボディは、七彩 Fair Lady 9ARを使用し、肩先にジャケット用肩パッド(0.5cm厚さに調整)を装着した。

パターンのポイントは、先に述べたように折り先の位置である。着用時に左右の折り山線の交差点が、バストライン(以後B.Lという)より上に納まるように、折り先を設定した。これは、婦人の身体の特徴である胸の高さによる影響が、折り山線の形状に強く及びにくいと考えたためである。

袖のパターンは省略する。

②基本型トワルの作成

・使用材料

身頃、衿、袖 カットクロス
接着芯 アピコAM80

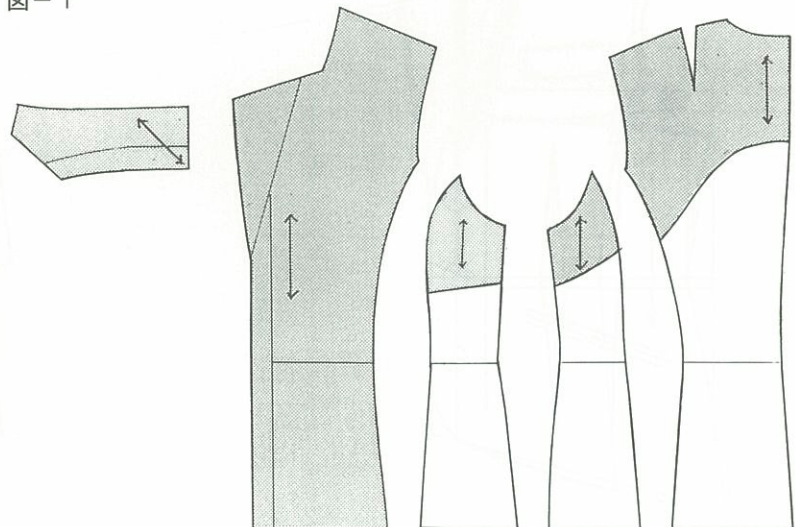
・裁断

縫い代 (cm) 衿付け線・衿1
裾2.5
他1.5

衿は後ろ中心バイヤス裁ち

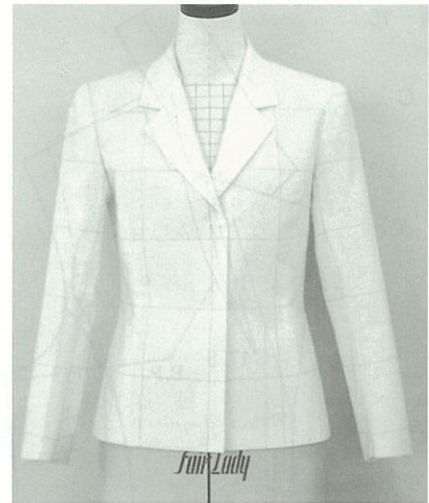
・芯の接着箇所(図-1)

図-1



- ・縫製 ミシン縫製 (写真-13)
シルエットがでるように必要な部分はアイロンで伸ばし、縫い代は割る。
衿は、折り山が落ち着く程度に外回りを軽く伸ばした。

写真-13
基本型
トワル

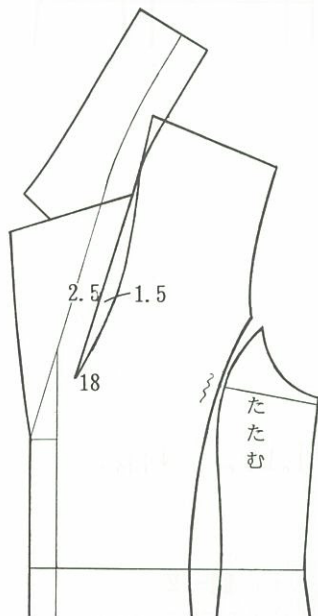


③分類別パターン及びトワルの作成

- ・①の基本型パターンをベースにして、Ⅲ-〔1〕で行ったA~Dの分類に従い、各パターンを作成した。
(製図-11~17)
- ・②の要領でトワルを作成した。ただし、袖は省いた。

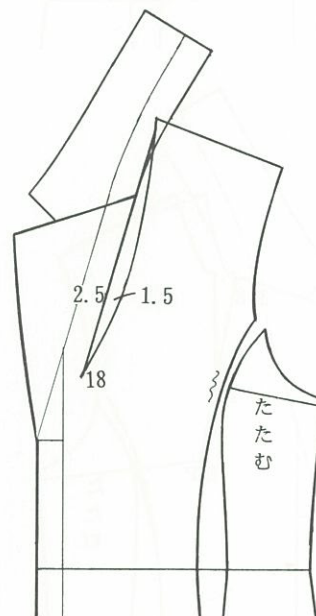
製図-11

A



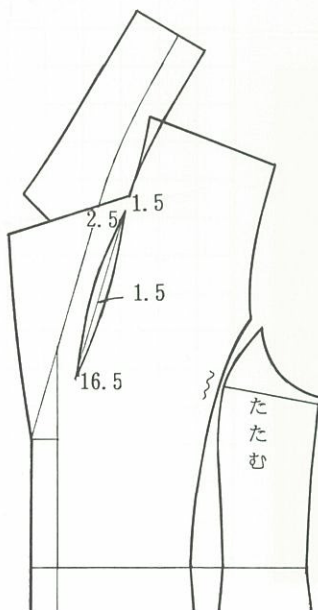
製図-12

A'



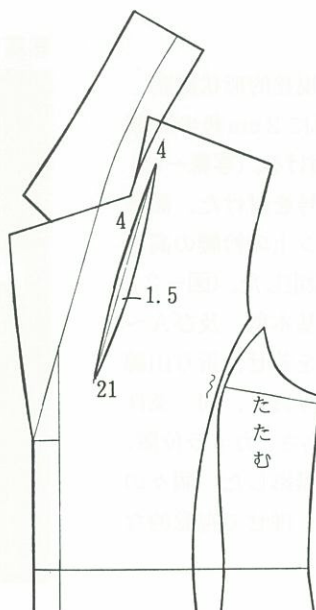
製図-13

B



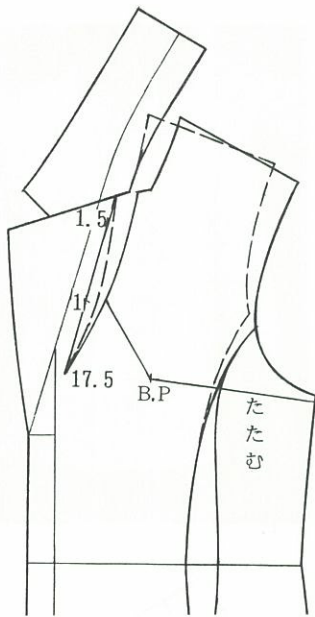
製図-14

B'



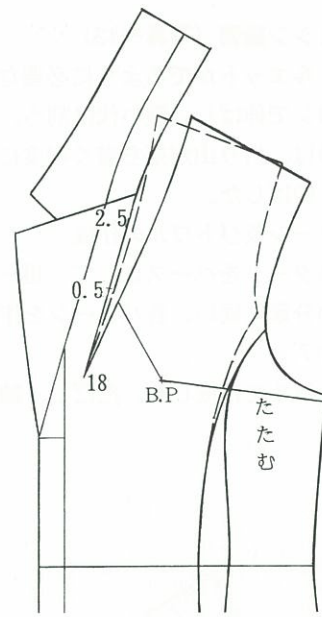
製図-15

C



製図-16

C'



製図-17

D

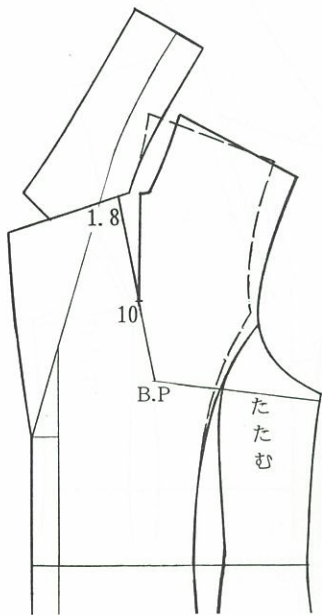
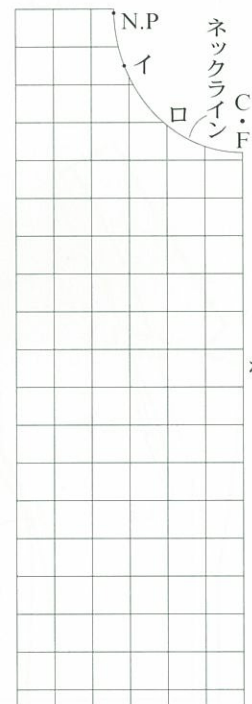


図-2



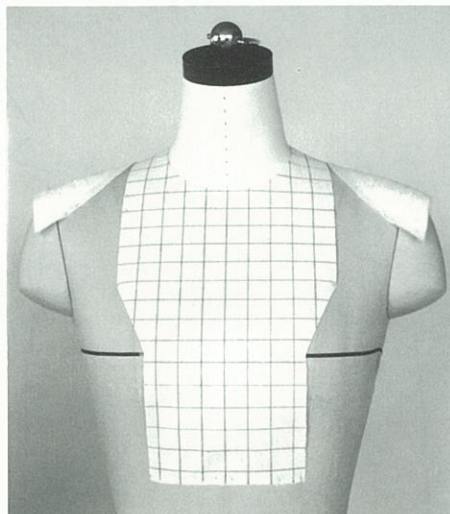
ハニホヘトチリヌルヲワカヨタ
わ

〔2〕方法

①写真撮影と視覚的形狀観察

- ・ボディの前面に2cm角の方眼目盛りを貼り付ける。(写真-14)
- ・目盛りには記号を付けた。記号イは、パターン上の衿腰の高さをとる位置と設定した。(図-2)
- ・このボディに基本型、及びA~Dの各トワルを着せ、折り山線周辺のアップ写真を、同一条件下(ボディの高さ、カメラ位置、距離など)で撮影した。個々の形状を観察し、併せて視覚的な印象を表した。

写真-14



②折り山のデザインラインの形状の分類別比較

写真に写った折り山線の形状を、ボディの目盛りを基に換算して図形化し、比較検討した。

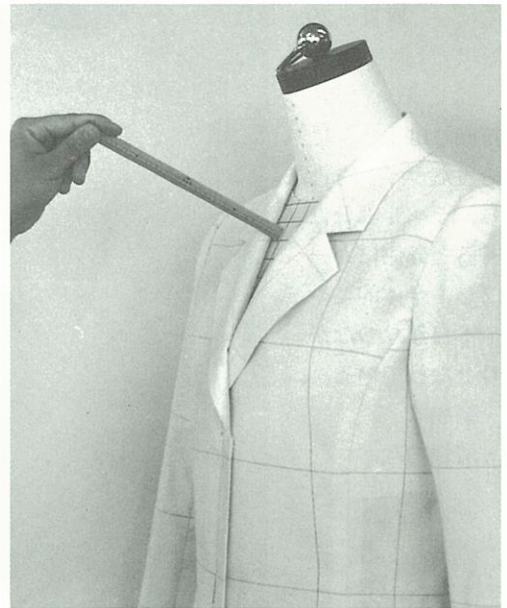
③折り山のデザインラインの立体的形状の分類別比較

折り山線が、ボディから立体的に起き上がる様子を測定してグラフ化し、分析した。

<測定方法> 右身頃のボディの表面から折り山までの高さを、目盛りの記号の位置（イ〜ル）毎に定規を垂直にあてて行った。（写真-15）

測定は3回行い（回毎に着せ直す）、平均値を出した。

写真-15



〔3〕結果

①折り山のデザインラインの視覚的形狀観察

試料の並べ順は比較観察の便宜上、基本型の次をDとした。以後もそれにならう。（写真-16〜23）

写真-16

基本型

首回りを過ぎたあたりから、ほぼ直線をなしている。

- ・キリッとした
- ・堅い

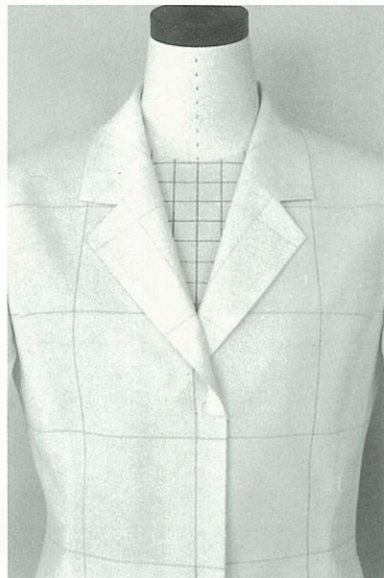


写真-17

D

ほぼ直線的なラインだが、基本型と比べゆとりを感じる。

- ・ゆったりした



写真-18

A

首回り付近から中程まで、外側にカーブを描き、それ以降はすんなりと折り先に向かっていく。

- ・幾分くだけた
- ・柔らかい

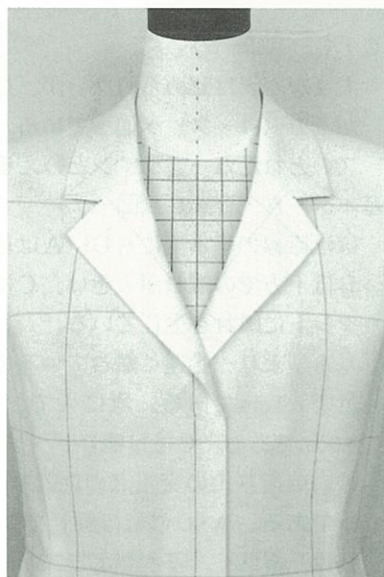


写真-19

A'

Aとほぼ同様に観察される。強いていえば、首回りがAに比べやや、ボディから離れた感じに見える。



写真-20

B

首回りはボディに沿ったラインをとり、ラベル部分にくると外側にカーブし、全体的にやや不自然なつながりとなっている。

- ・窮屈な
- ・個性的な



写真-21

B'

Bに比べて自然なカーブラインとなっている。

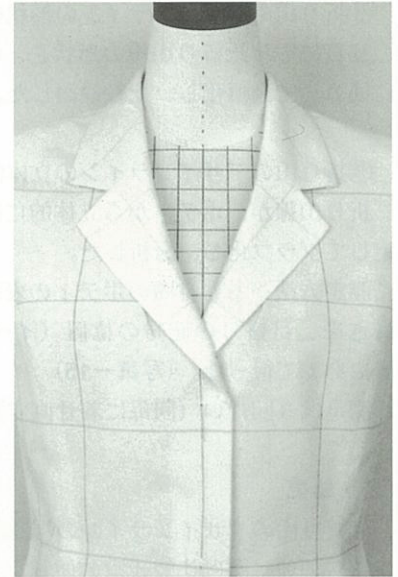


写真-22

C

基本型とAの中間の緩やかなカーブを形成している。

- ・自然な
- ・落ち着いた

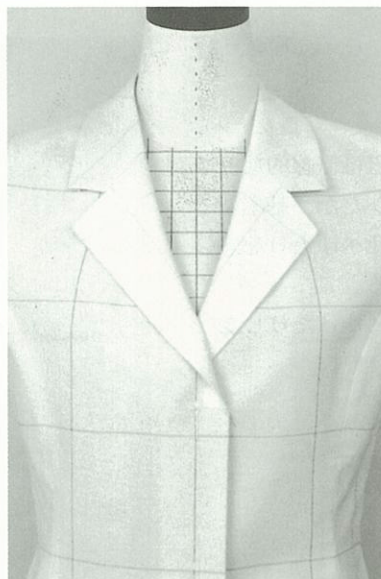
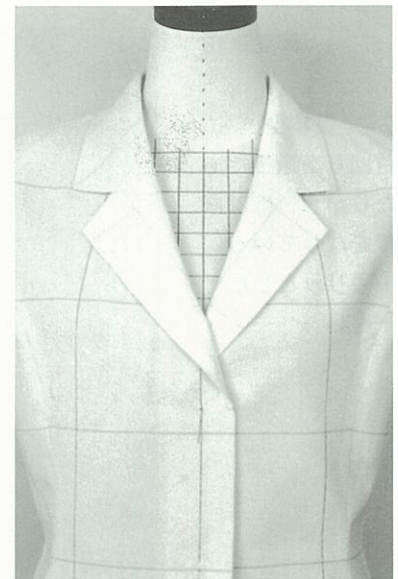


写真-23

C'

Cとほぼ変わらない。



②折り山のデザインラインの分類別比較検討

基本型・D (図-3)

基本型・D共ほとんど同じラインになっている。ハから前中心までほぼ直線である。

A・A' (図-4)

大きな差異は認められないが、A'の方が首回りからわずかに離れ、下方(チ以下)では内側へと入れ替わっている。

B・B' (図-5)

Bは、衿付け線付近(ハ・二)で内側へ入り、その下のラベル部分(ヘ以降)は逆に、大きく外側へ張り出し、くねったカーブラインとなっている。

B'はBのくねった部分が自然なカーブでつながれ、ラベル部分(ヘ以下)は、Bより内側に入っている。

C・C' (図-6)

大きな差異は認められないが、Cの方がカーブの比重が下方(リ・ヌ)へ偏っている。C'は全体にバランスのとれたカーブラインといえる。

基本型・A・B・C (図-7)

ほぼ直線の基本型に対し、Aは首回りの離れが大きくBは下方での離れが大きい。Cは全体を通してコンスタントに離れを生じている。

基本型より一番遠く離れているのはBで、目盛りト付近で1.1cmである。次にAで、目盛りホ〜ト付近で1.0cmである。Cは目盛りト〜リ付近で0.65cmである。左右の折り山の交差点の位置は、基本型はヌの0.6cm下である。A・Cはほぼ同じで、基本型より1.6cm下、Bが一番低く、基本型より2.2cm下である。

図-3
基本型・D

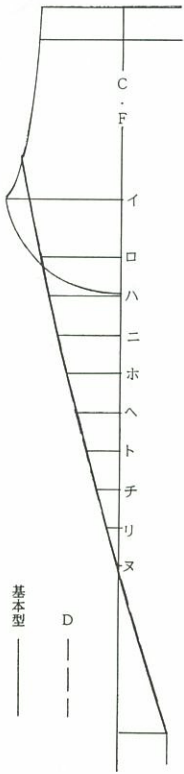


図-4
A・A'

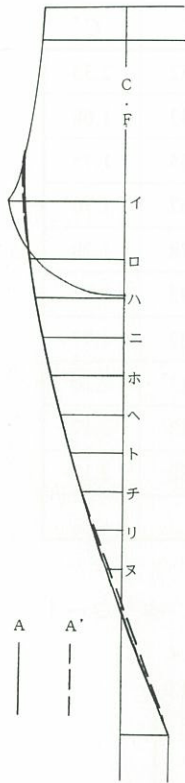


図-5
B・B'

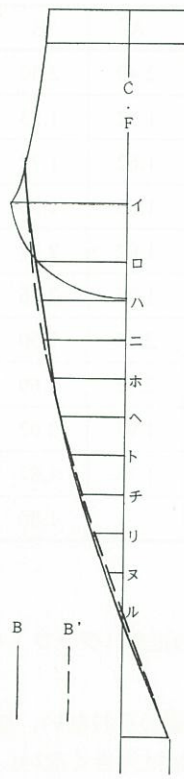


図-6
C・C'

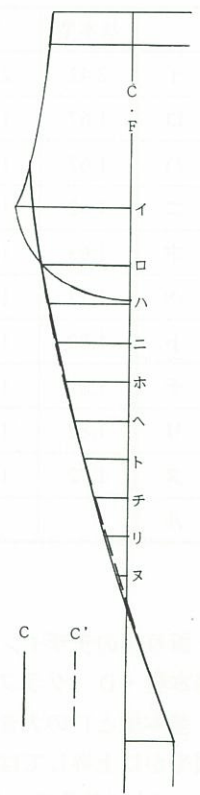
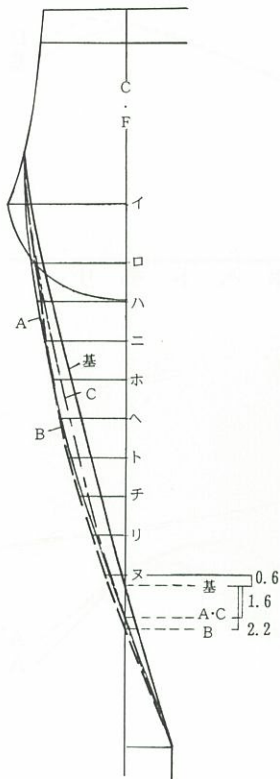


図-7
基本型・A・B・C



③折り山のデザインラインの立体的形状の比較検討
折り山を側面から観察すると、分類毎に立体的な形状の変化が認められる。

・写真は変化の少ない基本型（写真-24）と、目立って変化のあるB（写真-25）を対比して示した。

写真-24



写真-25



・測定値

表-4 [デザイン1] ボディから折り山までの高さの測定値 (単位: cm)

	基本型	D	A	A'	B	B'	C	C'
イ	2.42	2.50	2.30	2.40	2.30	2.27	2.32	2.33
ロ	1.67	1.58	1.48	1.52	1.53	1.40	1.43	1.68
ハ	1.67	1.62	1.77	1.62	1.72	1.57	1.55	1.75
ニ	1.62	1.63	1.93	1.60	1.90	1.77	1.67	1.70
ホ	1.63	1.65	2.12	1.82	2.17	2.03	1.78	1.78
ヘ	1.72	1.72	2.23	1.98	2.36	2.23	1.95	1.87
ト	1.80	1.82	2.20	2.13	2.50	2.35	2.07	1.97
チ	1.87	1.87	2.12	2.12	2.60	2.13	2.12	2.10
リ	1.82	1.90	1.90	1.95	2.07	1.97	2.13	2.17
ヌ	1.72	1.80	1.68	1.78	1.87	1.78	1.88	2.13
ル					1.80	1.70		

・折り山のデザインラインの起伏の推移 (グラフ1~5)

基本型・D (グラフ-1)

基本型とDの大きな差異は余り認められない。口から緩やかに上昇してはいるが、上昇幅は大きくない。

A・A' (グラフ-2)

Aは口からピーク(ヘ)に向かってすぐに上昇するのに対し、A'はニまでは停滞している。ピーク(ト)もAより下方へずれている。

B・B' (グラフ-3)

Bは口からの上昇の度合いが全例中一番顕著である。B'はピークがBより上方にずれており、全体において低めに推移している。

C・C' (グラフ-4)

口での落ち込みに差が見られる。それ以降はCの高低差が割合ははっきり出ているのに対し、C'は起伏の程度が小さい。

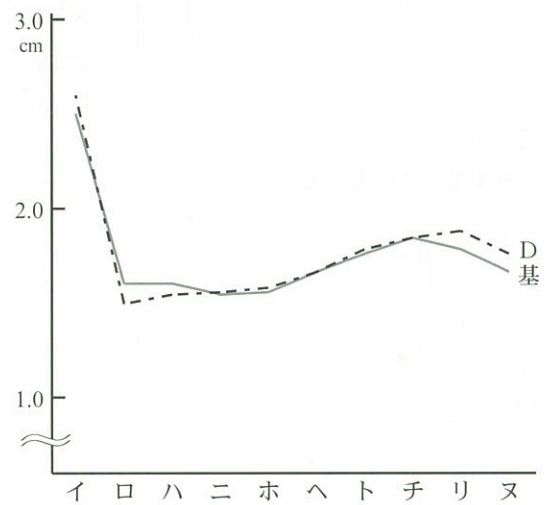
基本型・A・B・C (グラフ-5)

起伏の少ない基本型に対し、他はそれぞれの動きをもって上昇し、その後ヌへ向かって下降している。

上昇の度合いは、高い順にB・A・Cで、ピークの位置は、上からA・B・Cの順になっている。

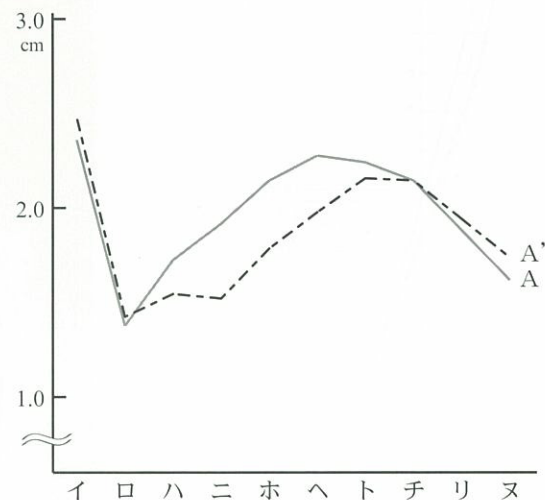
グラフ-1

基本型・D

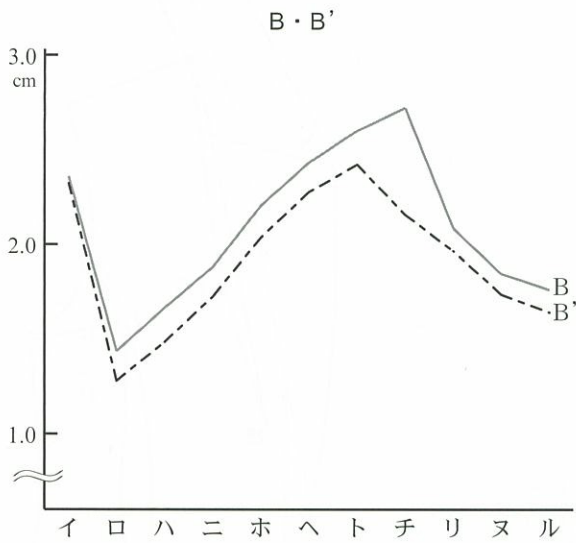


グラフ-2

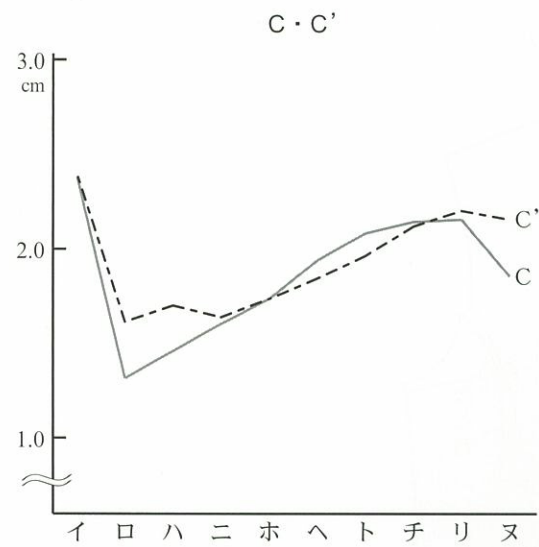
A・A'



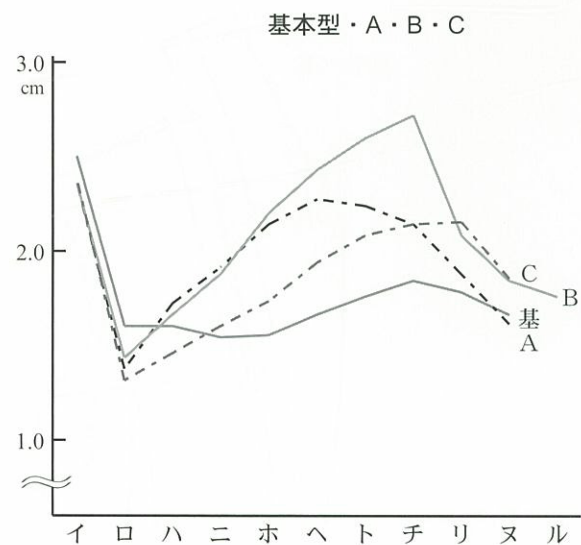
グラフ-3



グラフ-4



グラフ-5



【デザイン2】

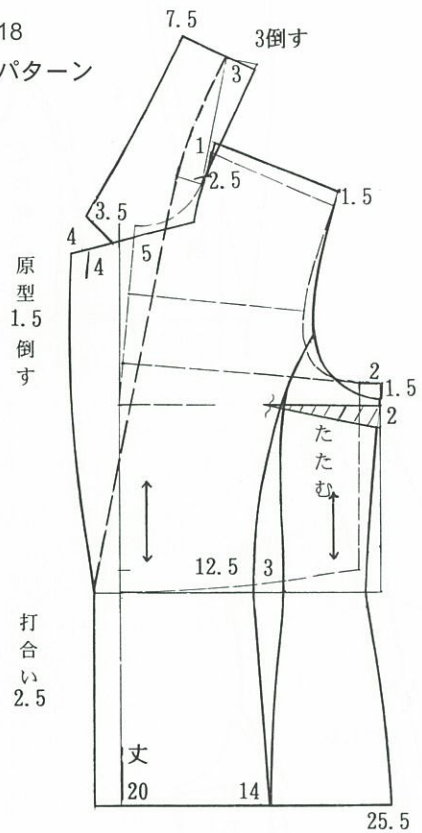
〔1〕 試料作成 (デザイン1に準ずる)

① 基本型パターン (製図-18)

折り先をウエストラインに設定した。折り山線がバストライン上を通過する影響を、デザイン1との比較において検討するためである。

製図-18

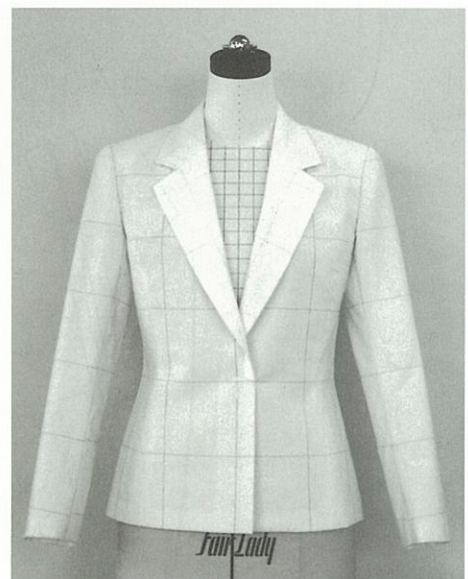
基本型パターン



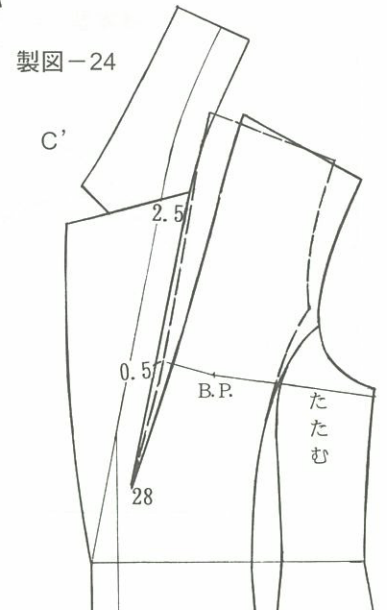
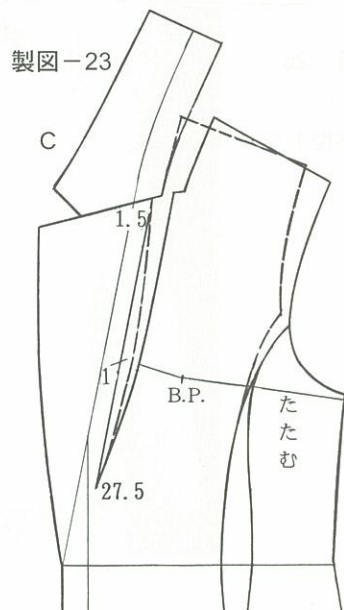
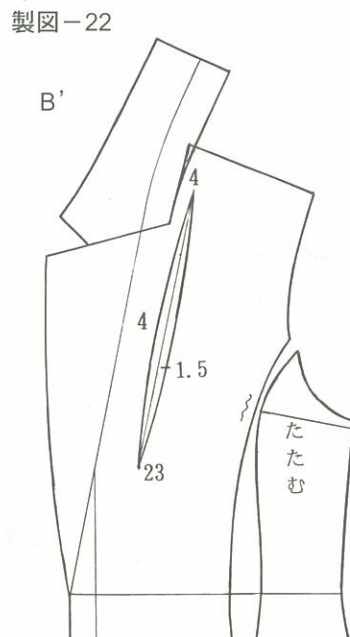
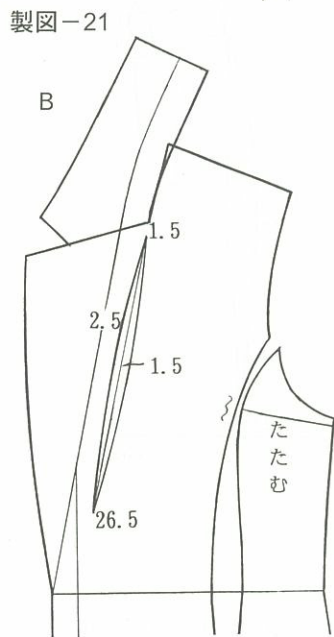
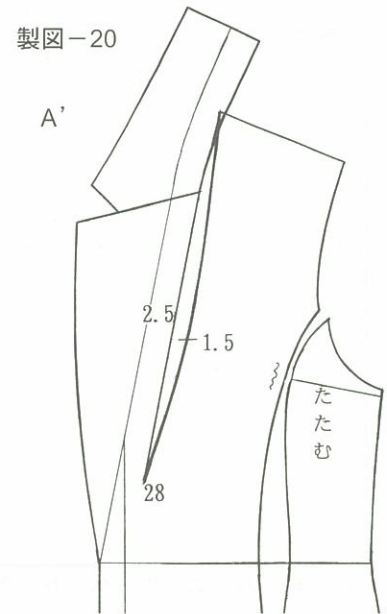
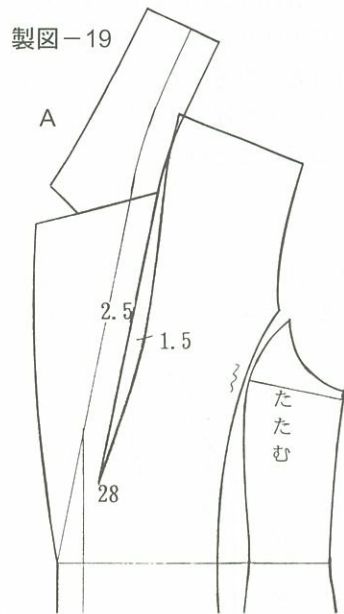
② 基本型トワルの作成 (写真-26)

写真-26

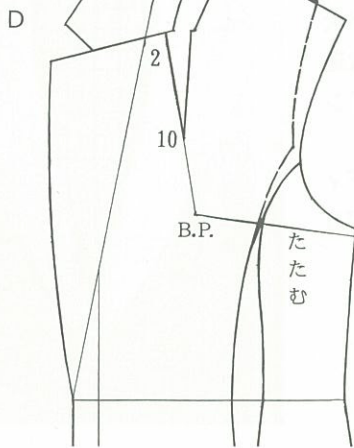
基本型トワル



③分類別パターン（製図-19～25）及びトワルの作成



製図-25



〔2〕方法

①、②、③をデザイン1と同じ方法で行う。
ただし、③は4回測定し、その平均値を使用した。

〔3〕結果

①折り山のデザインラインの視覚的形狀観察

(写真27~34)

写真-27

基本型

首回りから衿付け線にかけての緩やかなカーブから、自然に直線になって折り先まで向かっている。

- ・まじめな
- ・堅い

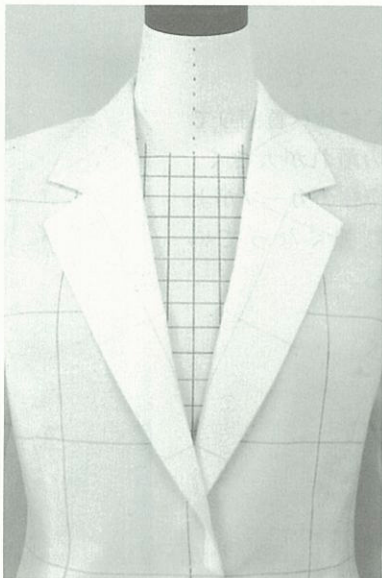


写真-28

D

首回りが少し離れるが、基本型とほぼ同じラインである。しかし印象は異なる。

- ・きちんとした

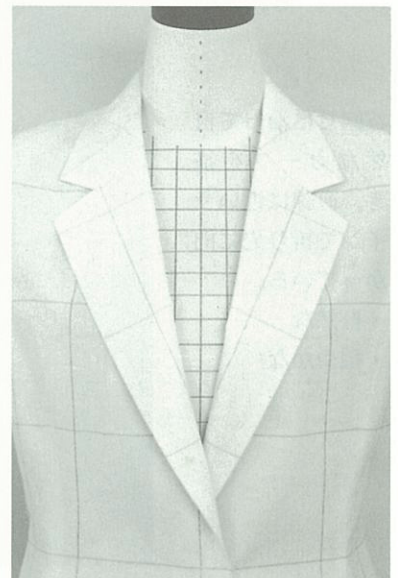


写真-29

A

ラベルの中程で緩やかなカーブラインをなしている。全体にボディから浮き上がっている。

- ・やさしい
- ・フワツとした

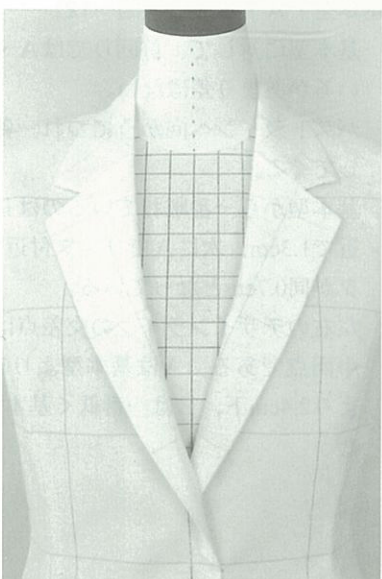


写真-30

A'

Aと比べ、首回りから胸元へかけてのあきが多くなっている。

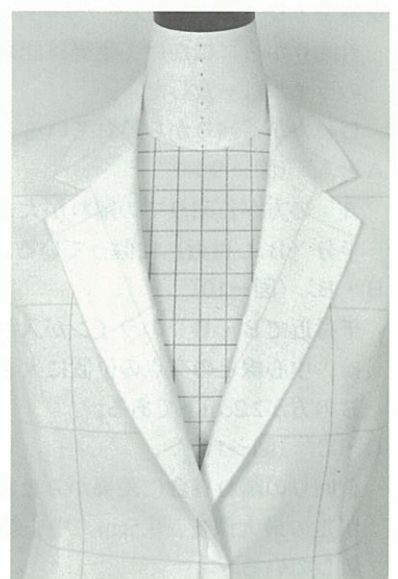


写真-31

B

首回りからしばらく真下に落ちるようなラインをとり、中程から角度を変えて大きなカーブで折り先へ向かう。

- ・ 個性的な
- ・ セクシーな

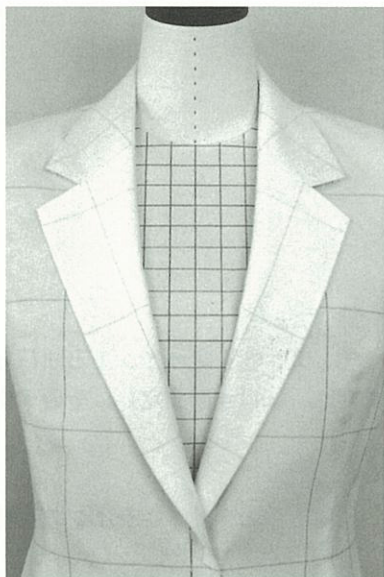


写真-32

B'

Bより上半分の外側への広がりが大きく、下半分は逆に縮まったラインとなっている。中間付近のボディからの浮き上がりが目立つ。

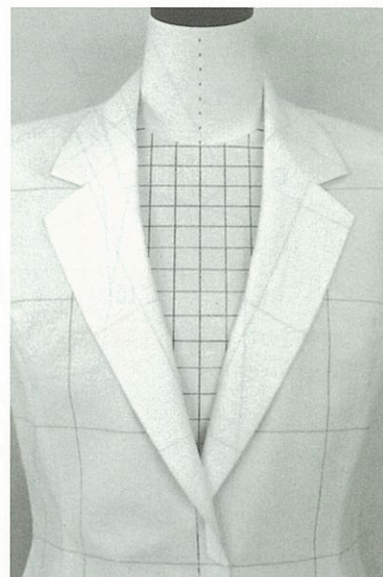


写真-33

C

首回りに沿って自然なカーブを描き、直線に近いラインで折り先に向かっている。

- ・ 自然な
- ・ 穏やかな

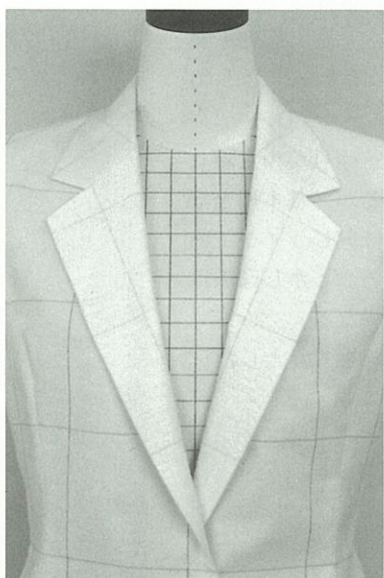
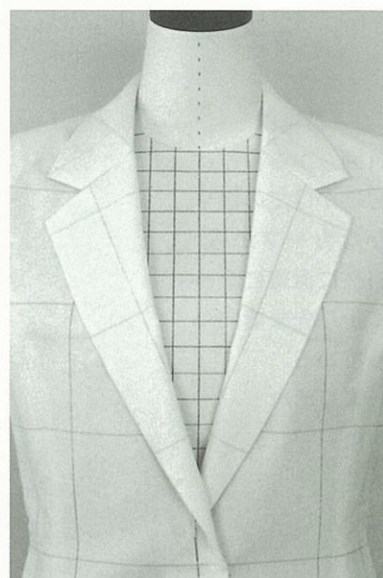


写真-34

C'

Cに比べ首回りでの離れが大きく、全体のカーブがより強くなっている。



②折り山のデザインラインの分類別比較検討

基本型・D (図-8)

首回りから二にかけて差異は認められるが、それ以下のラインは一致した。

Dの方が首回りから離れている。

A・A' (図-9)

A'の方が首回りでの離れが大きい。Aはカーブが下半分(B.L付近)に偏っている。

B・B' (図-10)

チ付近でB・B'のラインが入れ替わる。特徴的なのは、中心線との交点の位置に大きな差が生じており、Bの方が2.2cm下である。

C・C' (図-11)

首回りの離れ具合に差異がみとめられる。口〜八付近が差の最大値で、0.5cm。中心線との交点は、ほぼ一致している。

基本型・A・B・C (図-12)

基本型に対して、首回りではA・B・Cの順に離れているがあまり差はない。

バストラインへ向かうにつれ、各ラインの動きは変化してくる。

基本型から一番離れているのはBで最大差はル・ヲ付近で1.3cm、次にAでリ・ヌ付近で同1.0cm、Cはカ〜タが同0.7cmとなっている。

左右のデザインラインの交差点は、基本型はヨ・タの中間点である。Aは基本型より1.8cm下、Cは基本型より2.4cm下、Bは一番低く基本型より3.6cm下であった。

図-8

基本型・D

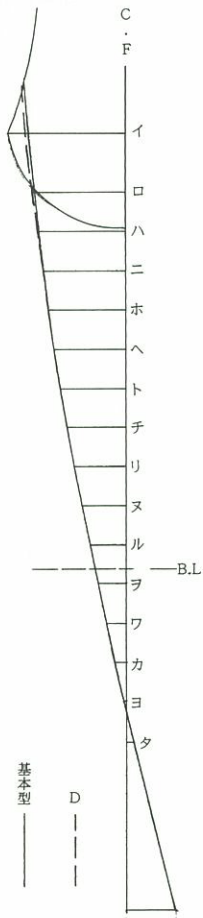


図-9

A・A'

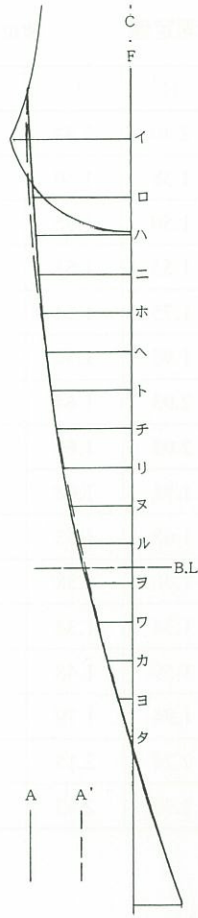


図-10

B・B'

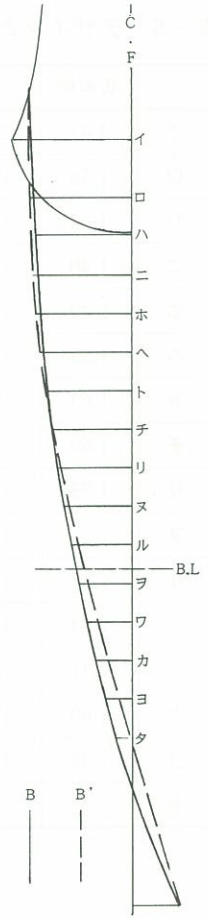


図-11

C・C'

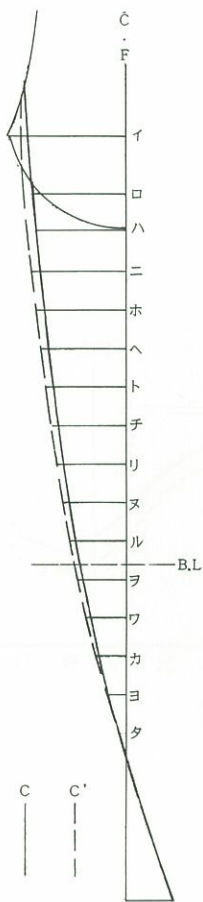
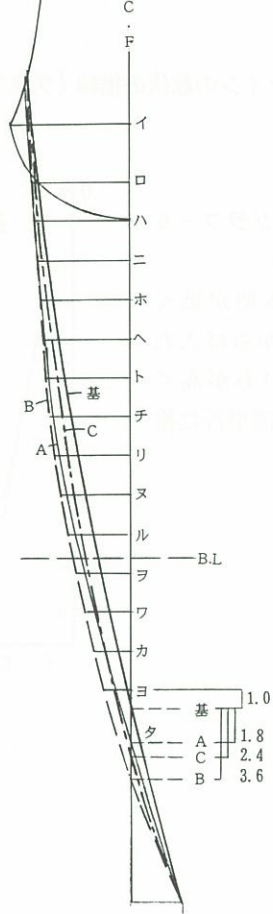


図-12

基本型・A・B・C



③折り山のデザインラインの立体的形状の比較・検討

・測定値

表-5 [デザイン2] ボディから折り山までの高さの測定値 (単位: cm)

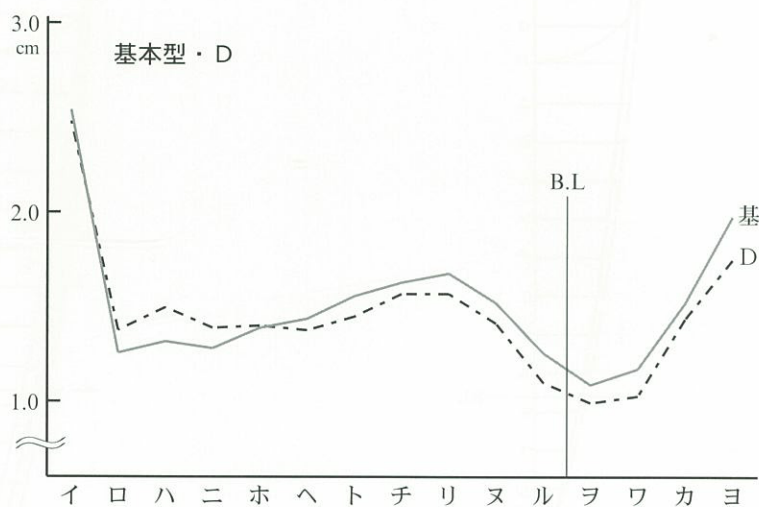
	基本型	D	A	A'	B	B'	C	C'
イ	2.45	2.40	2.40	2.43	2.40	2.40	2.44	2.29
ロ	1.38	1.48	1.65	1.63	1.30	1.38	1.50	1.44
ハ	1.43	1.58	1.83	1.70	1.36	1.50	1.55	1.53
ニ	1.40	1.49	1.85	1.69	1.35	1.55	1.51	1.43
ホ	1.49	1.50	1.94	1.79	1.43	1.75	1.54	1.46
ヘ	1.53	1.48	2.03	1.84	1.51	1.93	1.56	1.46
ト	1.63	1.54	2.08	1.93	1.59	2.03	1.64	1.48
チ	1.69	1.64	2.11	1.95	1.63	2.03	1.69	1.46
リ	1.73	1.64	2.06	1.89	1.65	1.91	1.68	1.45
ヌ	1.60	1.51	1.96	1.66	1.51	1.68	1.53	1.28
ル	1.38	1.25	1.76	1.40	1.36	1.40	1.38	1.14
ヲ	1.24	1.16	1.56	1.45	1.23	1.34	1.34	1.09
ワ	1.31	1.19	1.63	1.61	1.36	1.59	1.48	1.20
カ	1.60	1.53	1.89	1.91	1.63	1.94	1.79	1.48
ヨ	1.98	1.79	2.08	2.10	2.10	2.24	2.15	1.75
タ			2.18	2.40	2.45	2.58	2.43	2.10

・折り山のデザインラインの起伏の推移 (グラフ6~10)

グラフ-6

基本型・D

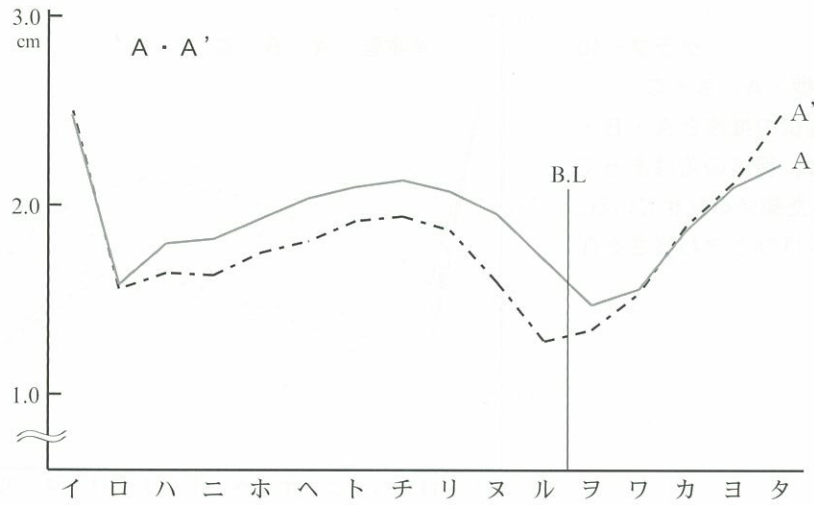
ロからホまでは基本型が低く (平均差0.11cm) ホからは入れ替わって、基本型の方が高く (平均差0.08cm)、ほぼ平行に推移している。



グラフ-7

A・A'

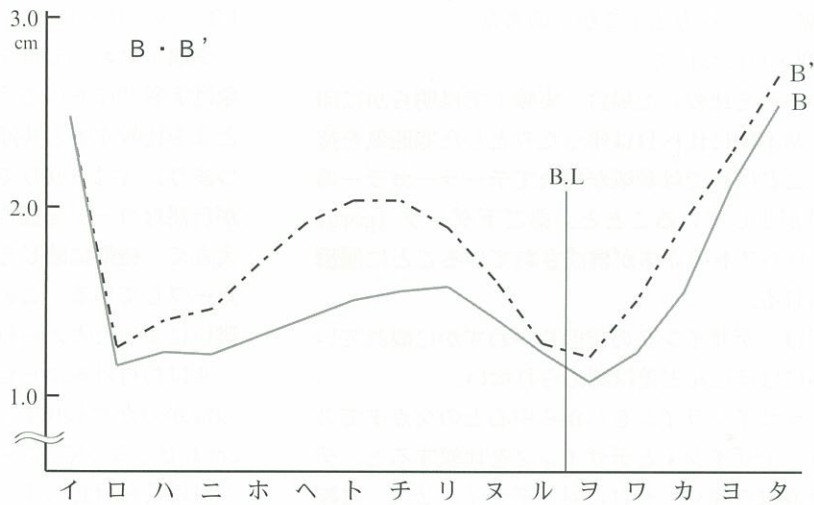
Aの方が全般に高いが（ハ～ヲまでの平均差0.19cm）、起伏のラインは相似している。



グラフ-8

B・B'

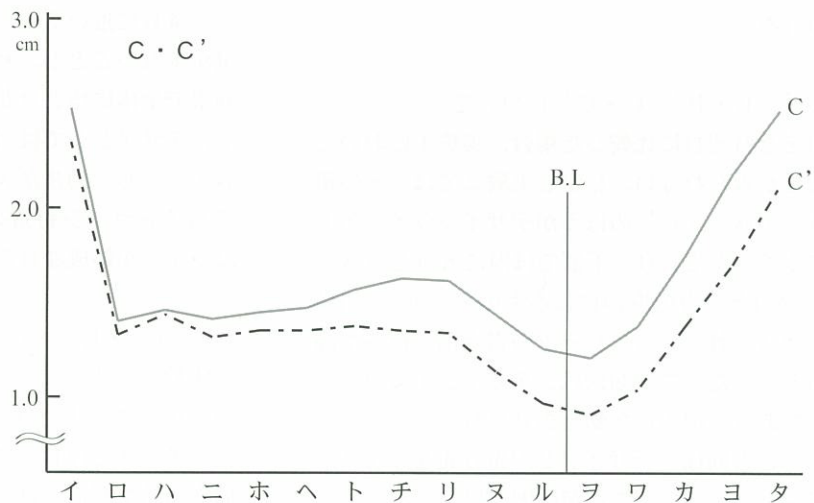
Bに比べ、B'の上昇の度合いが急であり、起伏差も大きい（最大値どうしの差0.38cm）。ピークの位置はBの方が下方（B'ート・チに対しB-リ）にある。



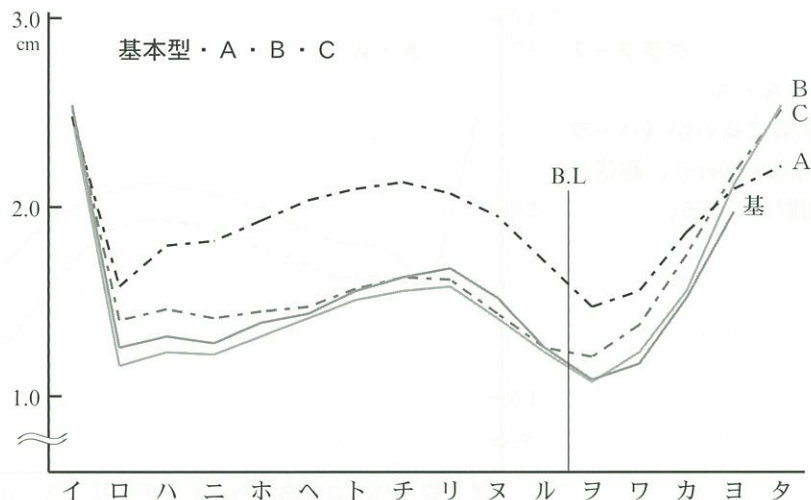
グラフ-9

C・C'

全体を通してC'の方が低く推移し、下方に行くに従ってその差が開きが出てくる。C'はバストラインより上での上昇がほとんど見られず、平坦である。



グラフ-10
基本型・A・B・C
基本型の起伏の推移とA・B・Cのそれは、程度の差はあっても、一致した動きを見せている。その中でAはひととき高さを保っている。



V 考察

〔1〕IV実験-〔2〕方法①②からの考察

(1) 基本型・Dについて

この2つの形を比較した場合、実験①では明らかに印象が違い、基本型に比べDはゆったりとした雰囲気を持っている。これはDでは身頃が倒れてテーラーカー周辺にゆとりが生じていることと、あご下ダーツ (gorge dart) によりバストの立体が構成されていることに起因すると思われる。

実験②では、デザイン2の首回りがわずかに離れていること以外にはほとんど差は認められない。

しかし、デザインラインをハから中心との交点までの間に区切り、デザイン1とデザイン2を比較すると、デザイン1は直線を描く。それに対しデザイン2は、直線に近いが最大で0.4cm外へカーブしていることがわかる。これは、デザイン2が折り先をウエストラインに設定し、折り山線がバストラインを通過する形であることから生じた変化で、デザインラインがバストの高さに引かれるためと思われる。

(2) A・A'、B・B'、C・C' について

この3組をそれぞれに比較した場合、実験①においてはあまり変化がみられない。しかし実験②では、どの組も共通でA'・B'・C'のほうがデザインラインの上部では外にふくらんでおり、下部では内に入っている。これはダーツのとり方の違いによるもので、A'・B'・C'のほうがA・B・Cよりダーツの書き出し位置が高いことによる。また、この傾向は、デザイン1より2のほうが顕著であり、増幅した動きを見せる。

これも(1)と同様、デザイン2が折り先をウエストラインに設定した形であることが原因と思われる。

(3) A・B・Cについて

実験①においては全く異なった印象を受ける。この印象は実験②においても裏付けられる。また、デザイン1と2を比較すると共通の動きをすることがわかった。つまり、Aは首回りでデザインラインが一番離れているが自然なカーブを描き、Bはラインの下半分でカーブが大きく、極端に感じられる。Cは全体にコンスタントにカーブしている。この差はそれぞれのダーツのとり方の違いによると考えられる。

Aは衿付け線から延長してダーツをとるのでラインのつながりが比較的良い。ただし、分量線をN.Pから4cm下でとるので首からラインが離れると考えられる。

Bは衿付け線の下にダーツを独立した形をとっているため、ラベルと衿の接ぎ位置(衿付け線)に無理がくる。また、ダーツの長さに対する分量の比率が大きいため、衿付け線(ニ・ホ)より下に、よりはっきりしたラインとしてあらわれてくるといえる。

CはBに近いダーツのとり方をしているが、ダーツ分量が少ないことと、サイドダーツを展開したことによる効果で全体にゆとりが出て落ち着いた印象となる。加えて、デザイン2ではバストラインを通過する影響でA・B・Cとも、動きが大きくなるが、特にBの動きは大きくバストライン付近のカーブが強調され、“セクシー”なラインが形成される。

(4) A'・B'・C' について

実験①においてはA・B・C程の違いは感じられない。デザイン1では、ほぼ同じ印象を受ける。しかし、デザイン2ではB'に個性を感じる。これは実験②でも同様の結果が得られた。

A' はデザイン1でも2でもN.Pから直接とったダーツの分量線の形にほぼ対応した形状となった。B' はデザイン1ではデザインラインがA' とほぼ同じ結果になったが、デザイン2ではハからバストラインまではA' より外側にカーブしバストラインからは内側に縮まったラインをとっている。C' はデザイン1ではA'・B' よりカーブの度合いが少ないが同じようなカーブを描き、デザイン2ではA' とほぼ同じ形状となっている。

デザイン1でA'・B'・C' がほぼ同じラインを描くのは、ダーツの長さが長く、書き出し位置が高くなっているためライン自体に影響が出にくいからと考えられる。A・B・Cの比較では一番個性的なラインを描いたBも、B' ではダーツ止まりの反動がN.P付近にくるのでデザインラインにはあまりひびかず、A' と同じラインを描く。C' はA'・B' に比べてダーツの分量が少ないのでカーブの度合いが少ないと思われる。

デザイン2ではB' は折り先の位置が低く、ダーツの書き出し位置がラベルより上にあることの影響が、顕著に出たと考えられる。C' はデザイン1と同じダーツ分量であるが、バストラインを通過して胸の高さの影響を受けたためにA' と同じ形状となったと思われる。

〔2〕IV実験－〔2〕方法③からの考察

本実験では、デザインラインを正面だけでなく他の方面からも観察し、平面的な形状とあわせて立体的に起き

上がる様子も考察した。

【デザイン1】

・基本型について

斜め横から見たデザインラインの高さ（写真－24参照）は、ほとんど起伏がなく一定の高さを保っているように見える。これをグラフにすると起伏があらわれてくるが（グラフ－1参照）、イは衿腰の高さを設定した位置で高く、ロ～ホは低くほぼ一定の高さを保ち、ヘ以降は左身頃と重なるために値が高くなっている。

この基本型のグラフ線を基礎として他の形の高さの変化を考察した。

・Dについて

基本型とほぼ変わりがない。このことから、この形ではあご下ダーツはデザインラインの立体には影響しないといえる。

・A・A'、B・B'、C・C' について

三者三様の起伏を描く。このグラフにより、折り山線の奥にダーツをとると、デザインラインがダーツに引かれて起き上がってくるのがわかる。また起伏の状態の違いはダーツのとり方によると考えられる。例えば、A・A' ではAはN.Pの4cm下からの分量線の形状がロ・ハに影響を与え、立ち上がりが大きくピークも早い。A' は分量線の書き出しがN.Pからなので形状が素直なため立ち上がりが緩やかでAを下回る。

表－6 【デザイン1】 折り山の起伏の高低差比較

(単位：cm)

		基本型	D	A	A'	B	B'	C	C'
イと口の高低差		0.76	0.92	0.82	0.88	0.77	0.90	0.89	0.65
口と最高値との高低差	最高位置	チ	リ	へ	ト	チ	ト	リ	リ
	差	0.20	0.32	0.75	0.61	1.07	0.95	0.70	0.48

表－7 【デザイン2】 折り山の起伏の高低差比較

(単位：cm)

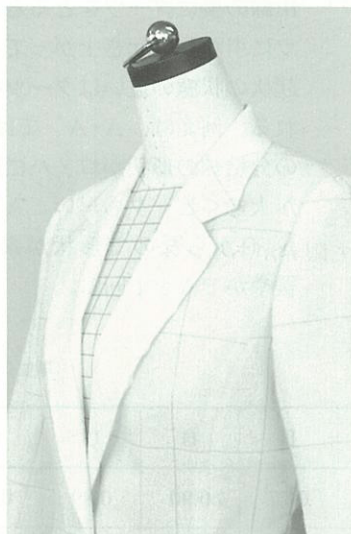
		基本型	D	A	A'	B	B'	C	C'
イと口の高低差		1.07	0.92	0.75	0.80	1.10	1.02	0.94	0.85
口と最高値(BPより上)との高低差	最高位置	リ	チ、リ	チ	チ	リ	ト、チ	チ	ト
	差	0.34	0.16	0.46	0.32	0.35	0.65	0.19	0.04
最高値(BPより上)と最低値の高低差	最低位置	ヲ	ヲ	ヲ	ル	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ
	差	0.49	0.48	0.55	0.55	0.42	0.69	0.35	0.39

Bのダーツは、独立した形でとられており、長さに対する分量の比率が一番大きいので、ピーク位置とその次の位置の落差が激しく、丸い山形にはならない。B'はダーツの長さが長い分、グラフも緩やかになるが特徴は同じで、ピークでアクセントのついた形となる。

C・C'は緩やかな上昇線を描く。これはダーツの形状も無理がなく、長さに対する分量の比率も小さいことと、サイドダーツを展開して身頃が倒されたことにより生まれたゆとりが、デザインラインの急な跳び上がりを緩和するのではないかと考えられる。

また、表-6をみてもA~C'それぞれの口と最高値との差の比較に特徴があらわれている。特にB・B'の値は大きく、デザインラインがかなり極端な形で跳び上がるようにボディから離れることがわかる。

写真-35
斜め横から観察した
デザイン2-基本型の
折り山のデザインライン



【デザイン2】

デザイン1と同様に基本型を基礎として考察する。

・基本型について

デザイン2は、デザインラインがバストを通過する形で、そのバストラインはルとヲの間にくる。斜め横からみたデザインラインの高さ(写真-35)は、バストラインに向かって低くなり、バストを越すと高くなっていくように見える。これはグラフとも一致し、口からいったん上昇した線がル・ヲへ向かうに従い下降し、ヲで最低値になったあと、再び急上昇する。ル・ヲ付近の最低値は胸の高さに身頃が接近するため、ヲ以降の上昇はバストからウエストへかけての身頃との空間と、左身頃との重なり分をあらわしている。

デザイン1との比較では(グラフ-11)、口以降すべてにおいて連動した起伏を描くが、平均すると0.18cm低くなっている。これはバストラインを通過するため、胸の高さでデザインラインが押しえられ、それが全体にわたって影響するためと思われる。

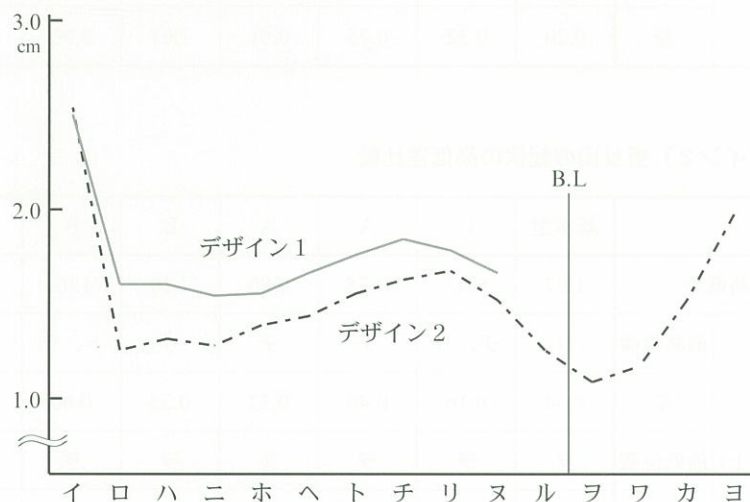
・Dについて

デザイン1と同様ほぼ基本型と同じだが、ホ以降は基本型より低く、ロ~ホは高い。差が小さいので影響を強く受けているわけではないが、やはりあご下ダーツによる変化といえる。つまりダーツによりバストの立体が構成されることと身頃に生じるゆとりの影響であろう。

・A・A'、B・B'、C・C'について

デザイン1とは異なり、Bを除き高さの程度の違いはあっても基本型に連動している。その中で一番ボディから浮いているのはAで、次がA'である。デザイン1では一番変化の大きかったBは、ここでは基本型とほとんど高さも動きも違いがない。B'はBとは対照的にA~C'の中で一つだけ極端な起伏を示している。そしてC・C'は起伏の高低差が小さく、基本型を間にはさん

グラフ-11
基本型における
デザイン1とデザイン2の
立体的形状比較



で緩やかな線を描く。

この相違の理由としては、1. ダーツの形状、2. ダーツの長さ分量の比率、3. ダーツの位置が考えられる。デザイン1では1.と2.の影響が大きかったが、デザイン2は折り先をウエストに設定したことでダーツが長くなり、形状も甘く比率も小さくなるため影響はあまりないといえる。そこで3.について考えてみると、デザインラインはダーツに引かれた反動で起き上がるが、ダーツからの距離が短いと高さがでないため、パターン上の折り山線からダーツまでの距離が遠い程デザインラインが高く浮くといえる。つまりA・A'が高いのは距離が遠く、Bが低いのは距離が近いので、B'は折り山線から一番遠く、またB.Pの間近(3.5cm)を通過するために、更に反動が強く直截的な形であらわれると考えられる。C・C'はAと距離は変わらないが、デザイン1でも述べたように、サイドダーツを展開し身頃を倒したことで生ずるゆとりがデザインラインへの反動をやわらげていると考えられる。

また表一7の「口とB.Lより上の最高値との高低差」を表一6の同項と比較すると、値が小さくなっているのがわかる。これは基本型のところでも述べたように、バストラインを通過することによって(ル〜ヲで)、一旦デザインラインが押さえられ起き上がりが制限されることが原因にあげられる。特にC'は、口からB.Lまでの間での上昇がほとんどなく、ボディに密着した状態といえる。この中で基本型だけは同項の値にあまり変化はない。この形だけにはダーツがとられていないために大きな変化とならないと思われる。

VI まとめ

実験①②③をとおし、デザイン1、デザイン2と折り山のデザインラインを観察してきた。

この結果から、各分類別のパターンの特徴や有用性をまとめてみたい。

〈A・A'〉

ダーツが衿付け線から延長した形でとられているので、デザインラインは自然なつながりを持ち、意図した形状があらわれやすいといえる。ただし、ボディからの起き上がりが確実に生じるので、この現象から受ける印象は無視できない。例えば、柔らかな感じは欲しいが、ふっくらした衿は望まないという場合には、AよりA'のパターンを使用するほうがよい。

〈B・B'〉

ダーツが独立した形なので、ラベルの陰であればどの位置にでもとることができる。しかし、結果的にはいろいろな所に無理がしやすい方法といえる。特にダーツの

書き出し部分は衿付け線との関係で身頃が平らに納まりにくい。またボディからの起き上がり方も極端な形になりやすい。ただし、特異な形や雰囲気を出すには有効なので、素材の選び方に注意した上で使いたい。

〈C・C'〉

デザインラインのあらわれ方は自然なカーブとなっておさまりがよい。サイドダーツを展開し、身頃を倒すことが様々な影響を与える。全体にゆとりがでてボディからの起き上がりも緩和される。結果的に落ち着いた印象になる汎用性のあるパターンといえる。

〈D〉

このダーツはバストの立体を構成するもので、印象では基本型に比べ少しゆとりを感じるが、デザインラインに対する影響はほとんどないといってよい。この特徴から、最近のマスキュリンスタイルに最適のパターンといえる。

VII 最後に

折り山線の奥にダーツをとると、それに呼応してデザインラインはカーブする。ただし、ダーツのパターンには種類があり、折り山のデザインラインとしての表情の多様性にそれぞれが対応していることがわかった。しかし、求めるデザインや表情によっては、これらの方法にも限界があるだろう。ダーツの分量の決め方は、長さとの関係においても、また身頃のゆとりへの影響においても更に検討が必要であり、これは今後の私達の研究課題でもある。また、素材によっては、ダーツをとるパターンとの適性等に相違がでてくることが想像される。この観点からも更に研究をすすめてゆきたい。

謝辞

今回の研究に当たってご指導、ご助言をいただきました、本学前被服科長 今井絹子先生、並びに越田弘子教授、その他ご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

参考文献

- (1) 『図解 服飾用語事典』 杉野芳子編著
株鎌倉書房 1989年
- (2) 『新・田中千代服飾事典』 田中千代著
同文書院 1991年
- (3) 『NEW PATTERN BOOK』
No.1 TAILORED SUIT ~No.28 '98 SPRING&SUMMER
学校法人 杉野学園
- (4) 『ニューデザイン研究』 1984・1985~1998・1999
学校法人 杉野学園
- (5) 『モード研究』 1984・1985~1998・1999
学校法人 杉野学園
- (6) 『別冊 s o - e n』
1984 春のスタイルブック~1998 夏号 文化出版局
- (7) 『服装』
1984 Spring Vol.11 No.1~1991 Winter Vol.18 No.4
学校法人 田中千代学園
- (8) 『MODE et MODE』
1984 新春号 No.221~1989 - 1・2月号 No.261
株モード・エ・モード社

写真出典

- 『g a p P R E S S C O L L E C T I O N S』
株ギャップ・ジャパン
- 写真-2 Vol.16 '98~'99秋冬 ハ°リ・ニューヨーク P.84
- 写真-7 同 上 P.70
- 写真-5 Vol.13 '98春夏 ハ°リコロ速報 P.71
- 写真-9 Vol.15 '98~'99秋冬 ハ°リコロ速報 P.89
- 写真-11 Vol.11 '97~'98秋冬 ハ°リ・ミラノ P.5
- 『COLLECTIONS』 株ギャップ・ジャパン
- 写真-1 '98~'99秋冬プレタポ°ルコレクション
ハ°リ・ロンドン P.106
- 写真-3 '97~'98秋冬プレタポ°ルコレクション
ミラノ・マト°リット P.23
- 写真-6 '98春夏プレタポ°ルコレクション
ハ°リ・ロンドン P.284
- 写真-8 同 上 P.183
- 写真-10 同 上 P.165
- 写真-12 同 上 P.181
- 『FASHION NEWS』 株流行通信社
- 写真-4 Vol.46 1998 春夏 ハ°リ・オートチュ°ルコレクション
P.33

製図出典

- 『NEW PATTERN BOOK』
学校法人 杉野学園
- 製図-1 No.17 '92~'93 AUTUMN&WINTER P.22
- 製図-2 No.15 '91~'92 AUTUMN&WINTER P.16
- 製図-3 No.28 '98 SPRING&SUMMER P.28
- 製図-4 No.23 '95~'96 AUTUMN&WINTER P.48
- 製図-5 No.25 '96~'97 AUTUMN&WINTER P.42
- 製図-6 No.25 '96~'97 AUTUMN&WINTER P.20
- 『モード研究』 学校法人 杉野学園
- 製図-7 1997~1998 P.10
- 『服装』 学校法人 田中千代学園
- 製図-8 1991 Winter Vol.18 No.4 P.66
- 『別冊 s o - e n』 文化出版局
- 製図-9 '96 秋冬のスタイルブック P.203
- 森田 (助教授)
- 吉川 (講 師)
- 田原 (講 師)